

平成22年度
救急・災害医学
卒業試験問題

1. 駅の構内で中年男が倒れているのを発見した。まず行うのはどれか。

- ① 脈の蝕知
- ② 呼吸の確認
- ③ 気道の確保
- ④ 意識状態の確認
- ⑤ 対光反射の確認

2. 一次救命処置の心マッサージの回数で適切なのはどれか。

- ① 10回／分
- ② 20回／分
- ③ 30回／分
- ④ 60回／分
- ⑤ 100回／分

3. 成人の一次救命処置で正しいのはどれか。

- ① 胸骨圧迫は剣状突起部で行う。
- ② 胸骨圧迫は1分間の60回の速度で行う。
- ③ 人工呼吸と胸骨圧迫の回数は1：5で行う
- ④ 口対口人工呼吸ができなければ胸骨圧迫のみでよい。
- ⑤ 除細動をするときには患者が動かないように抑える。

4. AEDを用いた除細動に関して正しくないのはどれか。

- ① 医学生はAEDを使用してはいけない。
- ② 呼吸がある場合はAEDを装着しない。
- ③ 汗でぬれている場合は拭いてからAEDを装着する。
- ④ AEDを装着する前に胸骨圧迫式心マッサージを10分間行う。
- ⑤ AEDを装着した状態で胸骨圧迫式心マッサージを行ってはいけない。

5. 路上で倒れている心肺機能停止成人患者において、蘇生率を向上させるために「一次救命処置」より「119番通報」を優先する理由はどれか。

- ① 除細動
- ② 酸素投与
- ③ 気道確保

- ④ 静脈路確保
- ⑤ 心電図伝送

6. 以下の中で心停止の波形でないものはどれか2つ選べ。

- ① 心室細動
- ② 無脈性心室頻拍
- ③ 無脈性電気活動
- ④ Ⅲ度房室ブロック
- ⑤ 発作性上室性頻拍

7. 二次救命処置における原因検索の疾患に含まれないものはどれか。

- ① 低酸素血症
- ② 低血糖
- ③ 低体温
- ④ 低Ca血症
- ⑤ 循環血液量低下

8. 二次救命救急処置(ALS)に含まれないものはどれか

- ① モニター監視下のマニュアル除細動器による除細動
- ② 原因検索
- ③ 気管挿管などの高度な気道確保
- ④ 前胸部叩打
- ⑤ 静脈確保と薬剤投与

9. 心肺蘇生に関する文章で間違っているのはどれか。

- ① 救命の連鎖に二次救命処置は含まれない。
- ② 救命の連鎖に迅速な除細動は含まれる。
- ③ 一次救命処置のアルゴリズムでは胸骨圧迫と人工呼吸の比率は30:2である。
- ④ 一次救命処置のアルゴリズムでは脈があり、呼吸がない時は人工呼吸を10回/分を実施する。
- ⑤ 胸骨圧迫は100回/分で強く早く押すことが大切で、圧迫解除を胸郭がしっかり戻るまで待つ必要はない。

10. 心肺蘇生時の人工呼吸で間違っているのはどれか。

- ① 人工呼吸は胸が上がるのが見て分かる程度の吹き込みで行う。
- ② 人工呼吸の1回換気量は6~7ml/kg(体重)である。
- ③ 吹き込みは1分間に10回程度である。

- ④ 循環のある小児・乳児に人工呼吸のみをおこなうときは1分間に12～20回を目安とする。
- ⑤ 気管挿管している患者でも可能なら胸骨圧迫と人工呼吸の比率は30:2が望ましい。

11. 出血性ショックの症候でないのはどれか。

- ① 意識混濁
- ② 皮膚湿潤
- ③ 四肢冷感
- ④ 徐脈
- ⑤ 血圧低下

12. ショックに関する文章の中で間違いはどれか。

- ① アナフィラキシーショックでは初期から著名な呼吸困難症状が起きる。
- ② 敗血症性ショックの初期は心拍出量は低下している。
- ③ ショックが遷延すると血圧は低下する。
- ④ 神経原性ショックでは皮膚温は温かい。
- ⑤ ショックの患者では動脈血液中の乳酸値は上昇する。

13. 敗血症性ショックについての文章で間違いはどれか。

- ① 初期にはhyperdynamic stateの状態になる。
- ② DICを合併しやすい。
- ③ 低血圧に対してはカテコラミンの投与が行われる。
- ④ SIRSはSepsisへの移行の前駆状態と考えられている。
- ⑤ グラム陰性菌の感染以外では起きない。

14. アナフィラキシーショックに関する文章の中で正しいはどれか

- ① 必ず数秒から30分以内に起きる。
- ② II型アレルギーによるショックである。
- ③ 血液分布異常性ショックを起こす。
- ④ アドレナリンの投与は有効でない。
- ⑤ 血管透過性は亢進している。

15. 出血性ショックの症候でないのはどれか。

- ① 意識混濁
- ② 皮膚湿潤
- ③ 四肢冷感
- ④ 徐脈
- ⑤ 血圧低下

16. 貧血への代償機序としての症候はどれか。

- ① 浮腫
- ② 頭痛
- ③ 失神
- ④ 頻脈
- ⑤ 便秘

17. チアノーゼを判定する部位で最も適切なのはどれか。

- ① 眼瞼結膜
- ② 口唇
- ③ 舌
- ④ 手掌
- ⑤ 足底

18. ショックの分類に関する組み合わせの中で間違いはどれか

- ① 血液分布異常性ショック-----敗血症性ショック
- ② 血液分布異常性ショック-----心筋梗塞
- ③ 心外閉塞、拘束性ショック-----収縮性心膜炎
- ④ 心外閉塞、拘束性ショック-----緊張性気胸
- ⑤ 循環血液量減少性ショック-----出血性ショック

19. 一般にバイタルサインに含まれないのはどれか。

- ① 呼吸数
- ② 体温
- ③ 尿量
- ④ 血圧
- ⑤ 脈拍数

20. SIRSの項目に含まれるものはどれか。3つ選べ

- ① 体温 $<36^{\circ}\text{C}$
- ② 脈拍数 >90 回/分
- ③ 呼吸回数 <15 回/分
- ④ WBC $<12000/\text{mm}^3$
- ⑤ $\text{PaCO}_2 < 32\text{torr}$

21. 12誘導心電図の胸部誘導の位置で正しい組み合わせはどれか？2つ選べ

- ① V1 — 第3肋間 胸骨右縁
- ② V2 — 第4肋間 胸骨左縁
- ③ V4 — 第5肋間 左鎖骨中線
- ④ V5 — V4とV6の midpoint
- ⑤ V6 — 第6肋間左中腋下線

22. 急性左心不全の所見で正しいものはどれか？3つ選べ。

- ① 起坐呼吸
- ② 発作性夜間呼吸困難
- ③ 肝腫大
- ④ 頸静脈怒張
- ⑤ 急性肺水腫

23. 急性冠動脈症候群（ACS）に関する文章で誤っているのはどれか。

- ① ACSのほとんどは虚血性突然死により病院到着後に死亡している。
- ② ACSの既往のある家族にBLSやAEDの使用法を習得してもらうのは推奨される。
- ③ 公共の安全に携わる人がAEDに習熟してもらうのは推奨される。
- ④ 地域社会で救命の鎖を創設し、維持していくことは推奨される。
- ⑤ 虚血性突然死の原因としてVFなどの不整脈が考えられる。

24. 急性冠症候群について正しくないのはどれか。

- ① 心エコー検査は心筋の虚血領域を評価するのに有用である。
- ② H-FABPIはトロポニンTに比較して発症早期の感度は高い。
- ③ CK-MBの発症極早期の診断感度は高くない。
- ④ 心電図の異常Q波は心筋梗塞初期から見られることが多い。
- ⑤ 下壁梗塞ではⅡ Ⅲ aVfの誘導でSTが上昇する。

25. ST上昇もしくは非上昇の急性冠動脈症候群に対する初期治療としてふさわしくないものはどれか。

- ① モルヒネ
- ② 硝酸薬
- ③ アスピリン
- ④ 酸素投与

⑤ リドカイン

26. ピンク色で泡沫状の痰を伴うのはどれか。

- ① 肺がん
- ② 肺炎
- ③ 肺水腫
- ④ 肺梗塞
- ⑤ 気管支喘息

27. 成人の末梢静脈路によく使用されるのはどれか。

- ① 内頸静脈
- ② 外頸静脈
- ③ 鎖骨下静脈
- ④ 橈側皮静脈
- ⑤ 大腿静脈

28. 図1は何をしているところか。

- ① 動脈血採血
- ② 動脈圧測定
- ③ 静脈内注射
- ④ 静脈血採血
- ⑤ 静脈路確保

29. 大動脈瘤についての文章で間違いはどれか。

- ① 腹部大動脈瘤は腎動脈分岐部以下に多い。
- ② 腹部大動脈瘤は待機手術でも破裂後の緊急手術でも手術成績や予後は変わらない。
- ③ 胸部大動脈瘤が大きくなると反回神経麻痺が起きる。
- ④ 大動脈瘤の確定診断は造影CTや超音波で行う。
- ⑤ 大動脈瘤の患者が突然のショックに陥ったら大動脈瘤の破裂を想起しなくてはいけない。

30. 急性大動脈解離の文章で誤っているのはどれか。

- ① 内膜に亀裂が生じて中膜が解離して腔（偽腔）を形成したものである。
- ② Marfan症候群は急性大動脈解離のリスクファクターである。
- ③ 急性大動脈解離患者の基礎疾患には高血圧はまれである。
- ④ Stanford分類 A型 は緊急手術となる。
- ⑤ 急に発症した激しい持続性の胸痛・背部痛がよくみられる症状である。

31. 単純レントゲン写真所見のなかで急性腹症と関連があまりないものはどれか。
- ① free air
 - ② niveau
 - ③ 腸腰筋陰影の明瞭化
 - ④ dog's ear sign
 - ⑤ 右季肋部の石灰化
32. Glasgow Coma Scale に関する文章で正しいのはどれか
- ① 合計点と同じなら神経学的予後は同じである。
 - ② 痛み刺激を加えながら呼びかけるとかろうじて開眼するのはE1である。
 - ③ 呼びかけで開眼するのはE2である。
 - ④ 見当識があるのはV5である。
 - ⑤ 除皮質硬直はM3になる。
33. Japan Coma Scale に関する文章で正しいものを2つ選べ
- ① 自分の名前、生年月日が言えないのは3である
 - ② 呼びかけると容易に開眼するのは30である。
 - ③ 痛み刺激を加えながら呼びかけるとかろうじて開眼するのは20である。
 - ④ 除皮質硬直は100になる。
 - ⑤ 痛み刺激に対して、開眼はしないが刺激部位に手をもってくるのは100である。
34. 意識障害患者の症状と原因の関係で間違っているのはどれか。
- ① ばち状指-----CO₂ナルコーシス
 - ② 徐脈性不整脈-----アダムスーストークス発作
 - ③ アセトン臭-----急性アルコール中毒
 - ④ 縮瞳-----モルヒネ中毒
 - ⑤ 鮮紅色の皮膚-----CO中毒
35. 高二酸化炭素血症を認める慢性閉塞性肺疾患患者で意識障害をきたし得るのはどれか。
- ① 呼吸中枢刺激薬投与
 - ② 経鼻的持続陽圧呼吸療法
 - ③ 気管切開による人工呼吸
 - ④ 気管挿管による人工呼吸
 - ⑤ フェイスマスクからの100%酸素投与

36. 脳卒中に関する組み合わせで間違いを選択せよ。
- ① 被殻出血----- 対側片麻痺、対側感覚障害、下方への水平性共同偏視
 - ② 視床出血----- 対側片麻痺、病巣側への水平性共同偏視
 - ③ 小脳出血----- 運動失調、健側への水平性共同偏視
 - ④ 橋出血----- 四肢麻痺 縮瞳
 - ⑤ くも膜下出血----- 運動麻痺なし、激しい頭痛
37. 「イー」と言わせたとき、口角に左右差がみられる患者が障害を受けているのはどれか。
- ① 第Ⅳ脳神経
 - ② 第Ⅴ脳神経
 - ③ 第Ⅵ脳神経
 - ④ 第Ⅶ脳神経
 - ⑤ 第Ⅷ脳神経
38. くも膜下出血についての文章で間違っているのはどれか。
- ① 重症例は昏睡や心肺停止に陥ることがある。
 - ② 髄膜刺激症状は発症早期から陽性となることが多い。
 - ③ ほとんどの症例はCTで確定診断できる。
 - ④ CTで診断がつかないときには腰椎穿刺による血性髄液の有無を調べる。
 - ⑤ 再破裂は発症後6時間以内に多い
39. 熱性けいれんについての文章で間違いはどれか。
- ① 持続時間は長くても数分でおさまる。
 - ② 好発年齢は3ヶ月から5才以下の乳幼児である。
 - ③ 学童期には熱性けいれんはなくなる。
 - ④ 解熱後に繰り返すことはない。
 - ⑤ 1回の発作でも重篤な後遺症を残す。
40. 髄膜炎に関する文章で間違っているものを選択せよ
- ① 小児の化膿性髄膜炎はインフルエンザ菌、肺炎球菌、髄膜炎菌が多い。
 - ② 成人の化膿性髄膜炎は肺炎球菌やグラム陰性桿菌が多い。
 - ③ ウイルス性髄膜炎では単純ヘルペスウイルスが多い。
 - ④ 化膿性髄膜炎の髄液の糖濃度は低下する。
 - ⑤ 結核性髄膜炎の髄液は混濁していて多核白血球が増加している

41. 破傷風に関する文章で間違いはどれか

- ① 破傷風菌はグラム陽性嫌気性桿菌である。
- ② 土壌常在菌である。
- ③ 運動神経に作用して強直性痙攣を起こすが、自律神経には作用しない。
- ④ 破傷風菌は神経毒素と溶血毒素の両方を持つ。
- ⑤ ペニシリンGの大量投与療法が抗菌薬の第一選択である。

42. クロストリジウム性ガス壊疽に関する文章で間違いはどれか

- ① クロストリジウム属の菌は土壌常在菌でグラム陽性桿菌である。
- ② ガス自体に毒性はない。
- ③ 患部は初期に強い疼痛がある。
- ④ 患部の腐敗臭や握雪感は診断の参考になる。
- ⑤ 高気圧酸素療法は禁忌である。

43. 敗血症に関する文章で間違いはどれか

- ① 肺炎や熱傷は敗血症になると予後不良となる。
- ② 敗血症は感染がありSIRS（全身性炎症反応症候群）を呈している状態である。
- ③ 敗血症性ショックに対して強心薬やステロイドを使用することは推奨される。
- ④ 早期の抗菌薬の投与は推奨されていない。
- ⑤ 早期の循環安定を目指した積極的輸液は推奨されている。

44. 脂肪塞栓症候群について間違っているのはどれか。

- ① 大腿骨骨折では脂肪塞栓が発症しやすい。
- ② PaO₂が低下する。
- ③ 点状出血がみられる。
- ④ 骨折後7～10日で発症する。
- ⑤ 精神症状が起きる。

45. 感染経路が空気感染でないものはどれか？2つ選べ。

- ① 結核
- ② 水痘
- ③ インフルエンザ
- ④ MRSA
- ⑤ 麻疹

46. 外傷についての文章で間違いはどれか

- ① 不慮の事故死は全死亡のうちの第5位となっている。
- ② 不慮の事故死の内訳では交通事故死が最多である。
- ③ 本邦の救命センターの防ぎ得た外傷死の割合は10%弱である。
- ④ START式トリアージの観察に呼吸回数は含まれる。
- ⑤ Crush syndromeは臀部四肢が長時間圧迫されることでおきる。

47. 外傷初期診療についての文章で間違いはどれか。

- ① primary surveyでは蘇生の必要性を判断する目的で生理学的兆候を評価する。
- ② secondary surveyでは治療を必要とする損傷を検索のために解剖学的評価をする。
- ③ primary surveyのBはBleedingで出血部位を検索することである。
- ④ primary surveyのAは気道の評価で開通の有無をみる。
- ⑤ secondary surveyは受傷機転などの情報の聴取と系統的な身体診察が含まれる。

48. 重症外傷の全身観察 (Secondary Survey) の時に行うものを 3つ 選びなさい。

- ① 胸部・骨盤単純X線ポータブル撮影
- ② 心電図
- ③ 1回目のFAST
- ④ CT検査
- ⑤ 背面の観察

49. 外傷による出血性ショックの原因として考えにくいものはどれか、一つ選べ

- ① 頭蓋内出血
- ② 肺動脈損傷
- ③ 肝破裂
- ④ 骨盤骨折
- ⑤ 大腿動脈損傷

50. 頭部外傷を受傷している患者に対して治療中である。二次性脳損傷の原因となるものはどれか。

- ① 低血圧
- ② 低酸素血症
- ③ 発熱
- ④ 貧血

⑤ 上記のすべて

51. 頭頸部外傷に関する文章で間違いはどれか。

- ① 高血圧、徐脈をきたし瞳孔不同があれば脳ヘルニアを考慮すべきである。
- ② 循環や呼吸状態が不安定な患者は全身状態を安定化させてから頭部CTをとる。
- ③ グラスゴーコーマスケール8点以下の頭部外傷は重症と考える。
- ④ 頸髄損傷では気道の確保よりも頸椎固定を優先する。
- ⑤ 穿通性頸部損傷では臨床所見でハードサインがみられたら緊急性が高い。

52. 心外傷にともなう心タンポナーデで見られない所見はどれか。

- ① 奇脈
- ② 心音減弱
- ③ 頸静脈怒張
- ④ 呼吸音の左右差
- ⑤ 血圧低下

53. 胸部外傷に関する文章で間違いはどれか。

- ① 心臓外傷危険領域は右鎖骨内側1/3ら左鎖骨中線の間にある四角の領域である。
- ② 頸静脈怒張、呼吸音に左右差のあるショック患者では緊張性気胸が疑われる。
- ③ ショック状態で胸壁の運動異常があればフレイルチェストが疑われる。
- ④ 顔面および頸部の点状出血と浮腫は外傷性窒息が疑われる所見である。
- ⑤ 緊張性気胸のレントゲンでは虚脱した肺、縦隔の患側偏位、健側の横隔膜下降がみられる。

54. フレイルチェストに関する文章で間違いはどれか。

- ① 3本以上の肋骨が2箇所以上で骨折すると生じやすい。
- ② 重症ではショック症状、チアノーゼが見られる。
- ③ 人工呼吸による間欠的陽圧呼吸が行われる。
- ④ 肺挫傷の合併はまれである。
- ⑤ 下位肋骨骨折では腹部臓器損傷も検索する。

55. 外傷性気胸に関する文章で間違いはどれか。

- ① 奇異呼吸がみられる。
- ② 重症ではショック症状が見られる。
- ③ 胸腔ドレナージが行われる。
- ④ 患側で鼓音が聞かれたら緊張性気胸を疑う。
- ⑤ 重症化してもチアノーゼはおきない。

56. FAST(Focused assessment with sonography for trauma)で見るべき部位でないものはどれか？

- ① 心嚢液貯留
- ② 胆嚢周囲
- ③ 膀胱周囲
- ④ 脾臓周囲
- ⑤ モリソン窩

57. 骨盤骨折についての記載で誤りはどれか。

- ① 安定型骨盤骨折は致命傷となることはまれである。
- ② 不安定型骨盤骨折は後腹膜出血をとめないやすく出血性ショックをきたす。
- ③ 骨盤骨折の初療時の確定診断は骨盤前後像の単純写真で行う。
- ④ 腸腰筋陰影が消失したら後腹膜血腫を考える。
- ⑤ 部分不安定骨折や完全不安定骨折は創外固定の適応とはならない。

58. 急性中毒の文章で間違いはどれか。

- ① 胃洗浄は誤嚥を起こす危険がある。
- ② 基本処置には水洗、胃洗浄、下剤と吸着剤投与、強制利尿などがある。
- ③ 有機リン中毒にPAMが有効である。
- ④ アセトアミノフェンの大量服薬に活性炭投与は有効である。
- ⑤ 腸洗浄は経口摂取したあらゆる薬剤に優れたエビデンスがある。

59. 有機リン中毒の文章で間違いはどれか。

- ① 縮瞳、発汗、筋れん縮を起こす
- ② 徐脈、呼吸障害を起こす。
- ③ 有機リン中毒に硫酸アトロピンが有効である。
- ④ コリンエステラーゼは低下する。
- ⑤ 血液透析が著効する。

60. 一酸化炭素中毒でみられないのはどれか。

- ① チアノーゼ
- ② 意識障害
- ③ けいれん
- ④ 呼吸困難

⑤ 血圧低下

61. 一酸化炭素 (CO) 中毒に関する文章で正しいものを3つ選べ。

- ① 練炭や自動車の排気ガスにより中毒症状を起こす。
- ② ヘモグロビンはCOよりも酸素に対する親和性が高い。
- ③ CT検査では小脳の低吸収域像が特徴的所見である。
- ④ いったん回復した後、再び昏睡にまでいたる間欠型一酸化炭素中毒がある。
- ⑤ 治療法として純酸素投与や高気圧酸素療法がある。

62. 薬物と拮抗薬の関係で間違いはどれか。

- ① 青酸化合物・・・亜硝酸アミル
- ② ベンゾジアゼピン・・・フルマゼニル
- ③ アセトアミノフェン・・・Nアセチルシステイン
- ④ クマリン系殺鼠薬・・・ビタミンD
- ⑤ 有機リン・・・PAM

63. 熱中症に関する文章で間違いはどれか

- ① 熱射病では体温が40℃以上になる
- ② 意識障害がみられたら救命センターへの搬送が望ましい。
- ③ 熱射病は多臓器不全やDICへ伸展すると予後が悪くなる。
- ④ 臓器不全の中で腎不全はまれである。
- ⑤ なるべく早く38℃まで冷却することが大事である。

64. 暑熱下で運動していた高校生が下肢と腹筋の痙攣を訴えて来院した。ただし処置を選べ

- ① 氷枕
- ② 除細動
- ③ 腹部加温
- ④ 経口補水療法
- ⑤ 5%ブドウ糖液の輸液

65. 偶発性低体温の症状として不適当なものはどれか？

- ① 頻脈
- ② J波
- ③ イレウス
- ④ 意識障害
- ⑤ 心室細動

⑥

66. 減圧症に関する文章で間違いはどれか

- ① 高気圧酸素療法の適応である。
- ② II型減圧症の脊髄型では背部通や四肢麻痺が見られる。
- ③ 呼吸困難、ショック、心停止がみられたら動脈ガス塞栓症を考えるべきである。
- ④ 関節痛、筋肉痛、しびれ感だけであれば高濃度酸素投与は必要ない。
- ⑤ 水深3m以内からの急浮上では減圧症は発症しない。

67. 高山病に関する文章で間違いはどれか

- ① 重症例は肺水腫をおこす。
- ② 重症例でも意識障害は起こらない。
- ③ 急性高山病では悪心、嘔吐のような消化器症状がでる。
- ④ 急性高山病ではめまいやたちくらみが起きることがある。
- ⑤ 症状がでたら下山が原則である。

68. 法的脳死判定の基準を満たさないものはどれか？

- ① 深昏睡
- ② 除脳硬直
- ③ 平坦脳波
- ④ 対光反射の消失
- ⑤ 自発呼吸の消失

69. 法的脳死判定が可能な病態はどれか？

- ① 低体温
- ② 薬物中毒
- ③ 劇症肝炎
- ④ くも膜下出血
- ⑤ 低血糖性昏睡

70. 死亡診断書で正しいのはどれか。

- ① 死因の種類で自殺は不慮の外因死に分類される。
- ② 医師本人が自著し署名した場合は押印は不要である。
- ③ 最終診察後72時間以内に死亡した場合は交付できる。
- ④ 記載できない部分は空欄のままにしておく。
- ⑤ 歯科医師は発行できない。

71. II度熱傷のdeep dermal burn DDB は図2のどの領域まで深達しているときに呼称されるか。

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑥

72. 火炎熱傷による患者（図3）が搬送された。この症例に関して間違いはどれか。

- ① 将来植皮が必要になる。
- ② 気道熱傷の可能性は低い。
- ③ 一酸化炭素ヘモグロビン高値が確認されれば100%酸素による人工呼吸を速やかに開始する。
- ④ 胸部の減張切開が必要になる可能性がある。
- ⑤ ヘモグロビン尿がみられる。

73. トリアージについての文章で間違いはどれか。

- ① 複数患者の緊急度を評価する。
- ② 複数患者の重症度を評価する。
- ③ 複数患者の搬送優先順位を決定する。
- ④ 複数患者の治療優先順位を決定する。
- ⑤ トリアージは災害現場でのみ行い、医療機関入り口では行わない。

74. 災害時に、自発呼吸があり意識混濁を伴うショック状態の患者につけるトリアージタックの色で正しいものはどれか。

- ① 緑
- ② 黄
- ③ 赤
- ④ 黒
- ⑤ 白

75. STARTトリアージで黄色になる患者はどれか？

- ① 歩行可能、呼吸 10 回/分、CRT < 2 秒、命令に応じる
- ② 歩行不可能、呼吸 16 回/分、CRT < 2 秒、命令に応じる
- ③ 歩行不可能、呼吸 35 回/分、CRT < 2 秒、命令に応じる
- ④ 歩行不可能、呼吸 12 回/分、CRT > 2 秒、命令に応じる

⑤ 歩行不可能、呼吸 14 回/分、CRT<2 秒、命令に応じず

76. 病院前救護システムについて救急救命士の包括指示下での特定行為で間違いはどれか 2 つ 選べ。

- ① 除細動
- ② 気管挿管
- ③ 骨髄穿刺
- ④ アドレナリン投与
- ⑤ 胃管挿入

77. 38歳の男性。草刈をしていたところスズメバチに頸部と前腕を刺されて来院した。局所の痛みと腫脹を訴えていたが気分悪いといってしゃがみ込んでしまった。可能性が低いのはどれか。

- ① 意識障害
- ② 呼吸困難
- ③ 頻脈
- ④ 血圧上昇
- ⑤ 皮疹

78. 2歳の男児。ボタン型電池を誤飲し来院した。頸胸部エックス線単純写真で食道入口部に電池が停留しているのを確認した。最初の処置として適切なものはどれか。

- ① 経鼻栄養チューブ挿入
- ② 内視鏡下摘出
- ③ 頸部切開手術
- ④ 気管切開
- ⑤ 経過観察

79. 40歳の男性。工作中、大量吐血して搬入された。意識は清明。体温36.1℃。脈拍120/分、整。血圧76/50mmHg。顔面蒼白。腹部は平坦、軟。上腹部に圧痛を認めるが、筋性防御は認めない。血液所見：赤血球260万、Hb 8.4g/dl、Ht 26%、白血球12,000、血小板23万。

対応として適切でないのはどれか。

- ① 酸素投与
- ② 静脈路確保
- ③ 膀胱カテーテル挿入
- ④ 上部消化管造影

⑤ 上部消化管内視鏡

80. 2歳の男児。4時間前に紙巻タバコを約1cm誤飲したために来院した。症状はない。最も適切な対応はどれか。

- ① 胃洗浄を行う。
- ② 水を飲ませる。
- ③ 牛乳を飲ませる。
- ④ 緩下剤を投与する。
- ⑤ 無処置で観察する。

81. 1歳男児が殿部の熱傷で深夜1時に救急受診した。全身に新旧様々な打撲痕を認め、全身のレントゲンで古い骨折のあとが多数みられる。当直医師の対応として適切なのはどれか？1つ選べ。

- ① 一旦帰宅させて、翌日あらためて受診してもらう。
- ② 保健所に連絡する。
- ③ 親との関わりは避ける。
- ④ 虐待の有無を両親に詰問する
- ⑤ 児童相談所へ通告する。

82. 38歳の男性。強い呼吸困難のため救急車で搬入された。同僚によると朝から喉が痛いため、ヨード剤でうがいをし、市販のトローチをなめたところ、15分経過したころから次第に呼吸が苦しくなってきたという。来院時、呼びかけに応答はなく頸動脈の拍動をわずかに触知する。顔面にはチアノーゼが著明である。まず行う処置はどれか。

- ① 気道確保 酸素投与
- ② 心臓マッサージ
- ③ 人工呼吸
- ④ 除細動
- ⑤ 中心静脈路確保

83. 46歳男性。近医で右肺尖部の異常陰影を指摘され来院した。胸部造影CTを撮影した直後に呼吸困難を訴え始めた。意識は清明。呼吸数36/分。脈拍140/分、整。血圧78/44mmHg。全身の皮膚に発赤を認め、呼気時に喘鳴を聴取する。直ちに投与すべき薬剤はどれか。

- ① ドパミン
- ② モルヒネ
- ③ リドカイン
- ④ アドレナリン

⑤ プロプラノロール

84. 頭部外傷を受傷している開頭術後の小児の患者（図4）である。以下の文章で間違いはどれか。

- a 頭蓋底骨折が疑われる。
- b 両眼瞼の皮下血腫はバトル徴候と呼ばれる。
- c 徐脈を呈することはない。
- d 高二酸化炭素血症や低酸素血症にならないように人工呼吸管理をする。
- e 鼻や耳からの髄液漏出を観察する必要がある。

85. 29歳女性。電車から降りた直後のホームで、突然胸痛と呼吸困難とを訴えて動けなくなり救急搬送された。意識は清明。身長 159cm、体重 81kg。呼吸数 32/分、脈拍 106bpm、整。血圧 98/76 mmHg。顔面蒼白で苦悶状である。

救急外来で直ちに行うべき検査ではないのはどれか？ 1つ選べ。

- ① 心電図
- ② 胸部造影 CT
- ③ 呼吸機能検査
- ④ 動脈血ガス分析
- ⑤ 血中 D-Dimer の測定

86. 46歳の女性。入眠前に自殺目的でアセトアミノフェンと睡眠薬を大量に服用した。翌朝家人が発見し、意識障害のため救急車で搬入された。血圧 125/68 mmHg、脈拍 60 回/分、SpO₂ 98%、呼吸回数 9 回/分、体温 36.1 度、JCS 100 であった。対応として適切なものはどれか？ 2つ選べ

- ① PAM 投与
- ② 胃洗浄
- ③ 亜硝酸アミル吸入
- ④ アセチルシステインの投与
- ⑤ 酸素投与

87. 36歳男性。交通事故にて救急搬送された。意識 JCS 100、血圧 78/44 mmHg、脈拍 122 bpm。右側頭部に挫創あり、腹部に打撲痕、腹部膨隆を認める。以下の中で最初に行うべきことを一つ選べ。

- ① 急速輸液
- ② NIHSS 評価
- ③ 診断的腹腔洗浄
- ④ 緊急頭部単純 CT
- ⑤ 緊急腹部造影 CT

88. 頭部外傷の患者が搬入された。secondary surveyで撮影したCT画像（図5）を参照して以下の文章で正しいものを2つ選択せよ。

- ① 急性硬膜外血腫である。
- ② 急性硬膜下血腫である。
- ③ 呼吸パターンは正常である。
- ④ 瞳孔は正円同大で対光反射は両側迅速であった。
- ⑤ 受傷直後は意識が清明であったが次第に低下して昏睡になった。

89. 22歳の男性。バイクでトラックと衝突し全身を強打、腹痛を訴え救急車で搬入された。意識 JCS 10。呼吸数 24/分、脈拍 104 /分で不整はないが微弱。血圧 74/34mmHg。体表に明らかな出血はなく、四肢に運動障害はない。眼球結膜に貧血・黄疸はない。対光反射は両側で迅速。外頸静脈の怒張はなく、呼吸音は両側でよく聞こえ異常はない。腹部に圧痛を認める。骨盤部に動揺や圧痛はない。

血圧低下の原因として最も考えられるものはどれか

- ① 頭蓋内出血
- ② 頸髄損傷
- ③ 心タンポナーデ
- ④ 腹腔内出血
- ⑤ 骨盤骨折

90. 48歳女性。腹痛と嘔吐があり救急車で来院した。5時間前から差し込むような腹痛が始まり、間欠的に混濁した黄色の消化管内溶液を嘔吐した。腹痛が始まってから排尿はない。3年前に胃下垂全摘術を受けた。意識清明。脈拍104/分、整。血圧98/82mmHg。心音と呼吸音とに異常はない。腹部はやや膨満し、高調の腸雑音を聴取する。まず行う輸液の組成はどれか。表から選べ。

	Na+ mEq/l	K+ mEq/l	Ca ²⁺ mEq/l	Cl- mEq/l	乳酸 mEq/l	ブドウ糖 %
a	130	4	3	109	28	0
b	77	30	0	59	48	1.5
c	70	42	12	70	54	25
d	35	20	0	35	20	4.3
e	0	0	0	0	0	5

- ① a ② b ③ c ④ d ⑤ e

20歳の男性。右下腿の創傷と疼痛のため救急車で搬送された。現病歴：バイクの運転中に乗用車と衝突して転倒し受傷した。既往歴：特記事項なし。現症：意識は清明。身長170cm、体重68kg。体温36℃。脈拍92/分、整。血圧124/80mmHg。ズボンには血液と砂が多量に付着している。ズボンの破れ目から皮膚の挫創と損傷した筋を認める。右下腿以外には明らかな外傷所見はない。検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液所見：赤血球440万、Hb13.8g/dl、Ht42%、白血球8400、血小板23万、血液生化学所見：総蛋白7.2g/dl、尿素窒素10mg/dl、クレアチニン0.9mg/dl、AST351U/l、ALT10IU/l、Na142meq/l、K4.5meq/l、Cl102meq/l

91. まず確認すべき損傷はどれか。

- ① 腱断裂
- ② 靭帯断裂
- ③ 動脈断裂
- ④ 神経断裂
- ⑤ 関節包断裂

92. 診察の結果、脛骨と腓骨の骨折をみとめた。まず行う処置はどれか。

- ① 動脈の縫合
- ② 皮膚の縫合
- ③ 骨折の内固定
- ④ 抗菌薬の投与
- ⑤ 創部のデブリードマン

60歳男性。ある冬の日、会社の帰りに大量に飲酒し、自宅に帰ろうとしたところ、用水の中に転倒し、濡れたまま2時間ほど中に倒れていたところを通行人に発見され、救急搬送となった。搬送時のバイタルは血圧182/95 mmHg、脈拍45回/分、SpO₂ 96%、呼吸回数9回/分、直腸温33.1度、JCS 20であった。顔面と両膝に擦過傷、右側腹部と左肩に打撲痕を認めた。

93. 対応として適切なものはどれか？ 2つ 選べ。

- ① すぐに毛布で保温を開始する。
- ② SpO₂ が良好であり、酸素投与は行わない。
- ③ 急性アルコール中毒に対して胃洗浄を行う。
- ④ レントゲン等の外傷の精査は完全に意識が戻ってから行う。
- ⑤ 加温した輸液を点滴する。

94. 家族より普段から大酒のみで、栄養状態が良くないことを聴取した、現在の意識障害の原因として考えにくいものはどれか？

- ① 低血糖
- ② 脳卒中
- ③ 低体温
- ④ 心筋梗塞
- ⑤ ウェルニッケ脳症

95. 後に撮影した頭部CTにて図6の所見を認めた。正しいものを選べ

- ① 被殻出血である。
- ② くも膜下出血である。
- ③ 原因は外傷による可能性が高い。
- ④ 両下肢に麻痺を認める。
- ⑤ 輸液を継続してはいけない。

47歳女性。乳房の腫瘍に気づいたので来院した。

現病歴：昨日、入浴後に右乳房に腫瘍を触知した。既往歴：特記事項なし。現症：意識清明。身長155cm、体重53kg。体温36.7℃。脈拍72/分、整。血圧120/70mmHg。眼瞼結膜に異常を認めない。頸部に血管雑音はない。心雑音はない。右乳房上外側に辺縁が不整な2cm大の腫瘍を触知する。乳癌の可能性を示唆したところ、顔面蒼白になり意識消失し、崩れ落ちるように倒れた。呼びかけに反応しない。

96. 気道確保とバイタルサインの確認をしながら、次にすべきことはどれか。

- ① 人を呼ぶ。
- ② 担架を探しに行く。
- ③ 静脈路を確保する。
- ④ 人工呼吸を開始する。
- ⑤ 心臓マッサージを開始する。

97. 患者がまもなく意識が回復した。脈拍80/分、整。血圧130/80mmHg。外傷はなく、神経学的にも異常を認めない。意識消失のエピソードに対して、次にすべきことはどれか。

- ① 経過観察
- ② 胸部X線撮影
- ③ 頭部単純CT
- ④ 脳波
- ⑤ 24時間連続心電図

58 歳男性。既往歴として高血圧がある。

最近自家工場の経営がうまくいかず不眠傾向にあった。今朝起床し、いつものようにタバコを吸っていたところ突然の胸痛を感じ以来左腕がしびれている。胸の痛みも軽快しないということで当院救急外来を受診した。血圧 208/112mmHg、脈拍は右橈骨動で 80 回/分触れるが、左橈骨動脈は触れなかった。SpO₂ 94%であった。来院後しばらくして血圧が 98/48mmHg と著明に低下を認めた。

98. まず行うべき検査はどれか？3つ選べ。

- ① 胸部X線検査
- ② 心臓超音波検査
- ③ 胸部単純CT検査
- ④ 心臓カテーテル検査
- ⑤ 心電図

99. 上記検査の結果に基づいて、直ちに治療を行ったところ血圧が 142/78mmHg に回復した。この治療として考えられるものはどれか？1つ選べ。

- ① 心嚢ドレナージ
- ② 左開胸心臓マッサージ
- ③ PCPS（経皮的人工心肺）
- ④ PCI（経皮的冠動脈形成術）
- ⑤ IABP（大動脈内バルーンパンピング）

100. 本症例の胸部造影CTを施行したところ、図7のような画像が得られた。

適切な治療法はどれか？1つ選べ。

- ① 抗凝固療法
- ② 冠動脈バイパス術
- ③ 右下肺葉切除術
- ④ 左開胸胃全摘術
- ⑤ 大動脈人工血管置換

平成22年度
救急・災害医学
卒業試験

画像資料

图 1



图 2

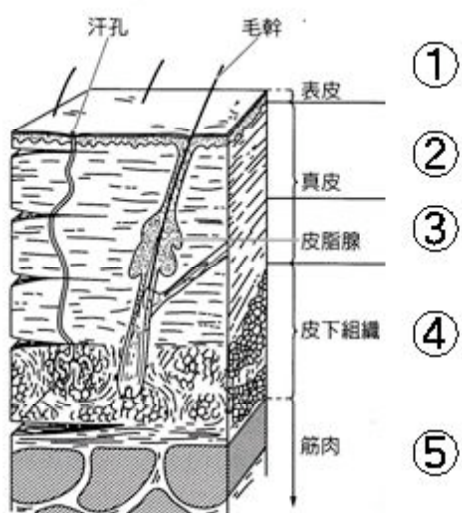


图 3



图 4



图 5

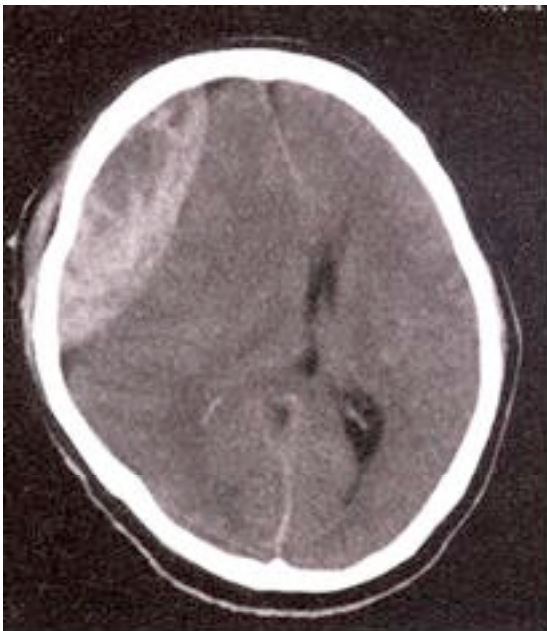


图 6

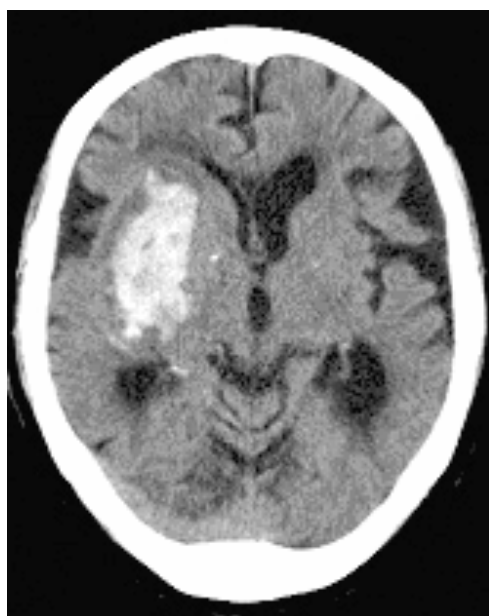


图 7

